ニューズレター
２０１４年1月
第１４号

てんとうむし

【子どもセンター　てんぽ事務局】
〒222-0033　横浜市港北区新横浜2-4-6 新横浜法律事務所内
TEL:045-473-1959　FAX:045-477-5822

みずきの風たち（元利用者）へ

LAP（元利用者生活支援プログラム）事業担当：加藤利明

前略

平成25年、巳の年も、わずかに1カ月を残すのみとなりました。実りの秋をゆっくり楽しめぬまま唐突な冬の到来に驚きつつ、なかなか適応しない身を震わせる今日この頃ですが、皆さんは仕事にプライベートにと、忙しい日々を過ごしていることでしょう。疲れがたまって体力が落ちると風邪に罹りやすくなります。また、ノロウィルスの時期でもあるので、身体を休めて健康管理に努めて下さい。そうそう、冬は空気が乾燥しています。手や肌が荒れてアカギレ・シモヤケ、湿疹ができ易い状態です。肌の乾燥に注意して、ハンドクリームやリップクリームは手放さないように…。

ところで、皆さんのアパート生活は順調ですか？掃除機を使っていますか？部屋の中にゴミは溢れていませんか？洗濯物は溜まっていませんか？流しに汚れた食器や鍋が山になっていませんか？冷蔵庫に腐った野菜は入っていませんか？浴槽の水は腐らせていませんか？疲れた身を横たえてホッとする場があるのは、健康な生活を続ける大切な条件です。言い換えれば、わたしたちが生きるための必要な力と豊かで安らかな心を養ってくれる大元です。みずきの家で職員が大切にしていたこと、それは清潔な環境の維持でした。もし、当てはまることがあれば連絡して下さい。手伝いに行きますよ。

最近、みずきの家に顔を出す人から会社の愚痴を聴く機会があります。その多くは職場の人間関係に関することです。「どこにもよくある…」ことですが、怖い目で語気を荒げて話す内容は理解できます。腹立ち紛れに手にしたノートを放り投げても、何故か共感しつつ相槌を打ち、大人としての分別を揺さぶられて、わたしはどこか気持ちの好さを感じています。皆さんの主張は時に大人を戸惑わせますが、それは共に生きるための大人の試金石ですから、誤魔化してはいけません。大人の誤魔化しに腹を立て、イライラし、物に当たりたくなるのですよね。確かに、もう少し自分を抑え、我慢も必要ですが、大人社会の価値観の揺らぎに思い至れば、何より余裕のない日常生活を恨めしく感じています。

取りとめのないことをつらつらと書き留めました。「何、ウザイことを言っているの…」と言われそうですが、「皆さんの事が気になる…」それが本音です。

時々顔を見せてください。お茶を飲みながら愚痴を聴かせてくれたら、それで十分です。

草々

（補）

今年度のLAP（生活支援プログラム）事業の内容です。平成25年10月までの統計によると、元利用者支援は合計140回で、その内容は通院付添、ハローワーク等就労支援、生活支援（掃除、炊事等）、相談、学習支援、1泊旅行企画・付添等です。支援はみずきの家職員の他、パート職員による週2回（1回1時間）の環境整備を実施しています。

シンポジウム
「子どもの自立に寄り添って」に参加して

学習院大学理学部助教　高 橋 雅 裕

昨年５月２５日、シンポジウム「子どもの自立に寄り添って」に参加しました。
きっかけは、友人が関連する仕事をしていて、教えてもらったことでした。知り合いがいなかったらそういったイベントを知ることがないですし、参加するにもそれなりの意欲が必要だと思いますが、今回は誘ってもらったこともあり気軽に参加できました。

元々、全く興味がなかったわけではありません。以前から、いくつかのメディアで直接的・間接的に関連する情報を得ていました。具体的には夜回り先生で知られる水谷修氏のことをテレビて見ていましたし、また、TBS 系ラジオ番組で貧困、虐待、障害、援助交際、その他の社会的弱者が関わる内容についてルポルタージュ等を聞いていました。さらに、私は大学で授業を行っていますが、教育にも興味があり、勉強できるかどうかという内容について、家庭環境が大きく関わっていると感じています。これは、経済格差の拡大と関係があります。
ですので、これらの問題を解決する総括的な方策は無いものか、と個人的に興味を持っていました。

そうした中、本シンポジウムに参加させていただき、具体的な活動内容・理念を勉強させていただきました。法律上、適切な援助が受けられない 18 - 20 才の少年・少女の保護を目的としていることがよく分かり、法律により支援ができない状況があることに問題があると感じました。また、少年事件を起こした後のケアや、児童相談所の不足を補う機能も果たしているということでした。

これまで私が見聞きしていた内容と合致するのは、適切なケアが特に子どものときに必要だということでした。幼少期の環境はその人の人格形成に大きく関連していそうだということは想像に難くありません。
しかし、凶悪な少年犯罪に関しては、その点を抜きにして語られることは少なくないと思います。少年院があるように常時の考えでは子どもと大人は区別されていますが、凶悪犯罪を少年・少女が犯した非常時はそのことが忘れ去られてしまう風潮があります。これは、人間の感情的なものですので理解はできるのですが、一旦、一歩下がって犯罪を犯した少年・少女の家庭環境等に目を向けたり、再犯せずに犯した罪にどの様に彼らが向き合えるかという視点に立つ必要があると思います。さらに、踏み込むと、犯罪を犯した少年・少女を作り出した環境を作った親の責任があると思う一方、その親も又、そうなるべくした環境の中で育って来た可能性が高いと考えられます。さらにその親、またその親、等考えていくと、結局は問題は社会全体の問題になると考えられると思います。こう考えると、犯罪を犯してしまった子どもを守り支援するという考えは、当たり前で必要なものとして、自分のこととして再認識させられます。

ところで、社会でいろいろな人と関わって生活していると、「なんて仕事／勉強をしない人だ？」と思ってしまう人と接することがよくあります。そして、その理不尽さに、「結局あなたが困っているのは、あなたのがんばりが少ないためですよね？」という自己責任論で片付けてしまいがちです。しかし、一方で、育った環境によっては、学力も上げることができず、どうしようもないことがあります。経済的に恵まれていて、塾にも行ける環境では、一般的に言われる偏差値の高い学校に行き、それなりの就職もできるでしょうが、そうでない人もいます。　「実力があれば」という世の中ではありますが、実力は多くの場合、環境があって初めて伸ばされます。ーーーというのがこれまでの自分の考えでした。しかし、シンポジウム内で上映されたビデオでは、成績に関して強い方向性が示され、それに嫌気がさして家を出るというストーリーが描かれていました。これを観て、社会では学力が必要だとされますが、それによってうまくいかないことがあるのだと認識させられました。難しい問題だと思います。結局は環境 × 性格のマッチングなのだと思いました。さまざまな人が多様性の中でより幸せに生活できる社会がよいと思います。

さて、ムービーで描かれた内容にも関連して、全く根本的な所で、「自尊心」がキーワードかなと感じました。人には心や感情というものがあるので、心が病むと生きていけなかったり、犯罪を犯してしまう傾向があるのではと思います。認められない環境で育つと、自尊心が育たず、自分を大切にしない→他人を大切にしないという行動規範が作られるという話でした。「褒めて伸ばす」というのはそのような背景を認識したとき、理にかなっているように感じます。てんぽやみずきの家では子ども達を認めることから始められるようで、頼りない、または本人にとって見方だと感じられない両親に代わって彼らの理解者となることが非常に大きいのだと感じました。自分が大切に思われていることを感じない限り、人は人として生きてはいけないのだな、と再認識しました。

おわりに、本シンポジウムに参加して、私はこれまで、社会全体をどうしたら問題解決に向かわせることができるのか、という始点で勝手に思考を巡らせていましたが、てんぽやみずきの家では、今そこにいる子どもを助けようという活動を行われていて、その始点の違いに気づかされました。ローカルな活動により、一人ずつ幸せな人が増えていき、その周りの人も変わっていくという正の循環が起こればと感じます。それで社会は少しずつよくなると考えられます。また、たとえそれが社会を大きく変えなくても、その助けられた人の世界は一変します。それだけに絞っても大きな意義があると思いました。そのような活動を日々行われている方々を知り、感銘を受けました。

このような活動をシンポジウムや、もう少し大きなメディアを通じるなどして、世間に広がり弱い子ども達の援助に繋がっていくことを願います。

オレンジリボンたすきリレーのイベントに参加して

今年は台風のせいで中止になってしまうかもしれない…天気予報とにらめっこをして一週間を過ごしましたが、当日は快晴となりました！ランナーの熱意に対抗し、太陽も本気を出したのでしょう。

会場は、わたがしや風船を持った子ども達で賑わい、笑顔があふれていました。子どもセンターてんぽのブースでは紙芝居を上演し、たくさんの方々に楽しんでもらうことができました。

イベントの終盤、ランナーのたすきが引き継がれてゆく場面では、児童虐待防止に対する、思いの強さを感じました。こうして大人数が集まり、行動を起こすことで、メッセージがより一層広く伝わっていくのだと思います。目に見える形で行動に移すことは、支援を進めるなかでも、とても重要です。

心の中ばかりで利用者の事を考えていても、なかなか本人には伝わらないものです。多くの大人が、利用者である貴方のことを気にかけているよ、というサインを示すには、それぞれが声をかける必要があるのではないでしょうか。私はまだまだ未熟なため、適度なアプローチの仕方は模索中ですが…。

子ども達に伝わりやすく、よりアクティブな支援ができるよう、これからも、ランナーのように気合を入れて走り続けていきたいです。

（スタッフ）

みずきの風

開設から3年半が過ぎたみずきの家ですが、年度初めの頃に、利用期間が長い利用者が次々にアパートに移り、新しく入居してきた利用者にバトンタッチされて、集団の雰囲気は大きく変化しました。良い悪いではありませんが、当然、利用者が作る雰囲気の違いは、わたしたち職員にも大きな影響を与えます。

では、どんなふうに変わったのかといえば、集団として機能するよりも個としての動きが主になりました。利用者それぞれが自分のスタイルを表現し、他と交わらないままなのです。時間は共有しても、自分のペースやスタイルでその場にいて、言葉は交わしてもそれ以上近づきません。一緒の生活ですが、お互いに影響し合わないのです。

それでも、みんな休まずに仕事に行き、休日には自分なりの予定を立てて行動しています。お互いに邪魔することなく、自分の方法で生活している彼女たちを見ていると、それなりの方向性は感じますが、やはり一人では生きて行かれません。誰かと一緒に、助け、助けられて生きるのですから、それをどのように身につけるかが課題かもしれません。（加藤さい・利明）

「子どもセンター てんぽ」を利用して⑨
～食事ボランティアの視点から～

シェルターで食事ボランティアを始めてからもう４年になる。子どもたちが羽を休めて自分を見つめ直すのに＜食べること＞はとても大切なことと思っている。子どもたちの好みを考えながら、メニューも食材も自分で決めている。偏食も多いけど、他の人が食べているとつい一口食べてみようかと思ってもらえばしめたものだ。意外に思ったのは煮物や魚が好まれたことで、今年は鰤大根を何度も作った。新入生が入ると食事メニューのあれこれになり私も食べたいとなったためだ。

気がむくと手伝ってくれるのでお喋りをしながら料理をする。野菜の切り方や料理の手順を見ているだけでも、自炊をする時に役に立ってくれればと願っている。食事が出来て食卓を囲みながらするお喋りも楽しい。私は皆から見るとお祖母さんの世代だ。その私がK-popスターに夢中なのが面白いらしい。本当に皆が可愛くて仕方がない。

子どもたちが、シェルターで無条件に受け入れられていると感じ新しい一歩を踏み出して行くのに私も少しは役に立っているかな？

火曜日の夕食楽しみでしたと言ってもらえることが、私にとってとても幸せなことだと皆分かってくれているよね。（食事ボランティア　白井千賀子）

子どもの家から

ある利用者さんと向き合って話をしている時に「大丈夫ですよ」と言ったので「今、私はあなたが我慢している答えを求めていない」と言うと、悲しそうに笑って「…言葉にできないんですよ」と彼女は答えました。

「我慢」について最近考えさせられます。

少し前までの私は「我慢しなくていいんだよ」と利用者さんたちに良く言っていました。

でもこの利用者さんを通して、そうやって簡単に口にしていた自分を恥じるようになりました。

我慢しなければ乗り超えられないこともある、そんな当たり前のことに今更気がつかされたのです。

自分の力で乗り越えられることは自分の力で乗り越えて貰う。私は乗り越えられそうにない時にサポートすることと、自分の力で乗り越えられるように「いつでも転んで来い！任せとけ！」と後ろで両手を広げて構えることしか所詮できないのです。

スタッフなんて本当に何にも出来ない存在です。「理解したい」私にできるのは、ただその一心です。（スタッフ）

ご支援ありがとうございます。

子どもセンターてんぽでは，運営にあたり，多くの企業及び個人の皆様から，ご寄付および助成金等の金員及び物品のご支援をいただいています。今年度は現在まで以下のみなさまから金員および物品のご支援をいただきました。

ともしび基金（神奈川県社会福祉協議会），社会福祉法人神奈川新聞厚生文化事業団，社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団，株式会社ＡＯＫＩ，横浜鶴見北ロータリークラブ，神奈川ロータリークラブ，コストコホールセールジャパン株式会社，国際ソロプチミスト川崎，カンバーランド長老キリスト教会高座教会，株式会社川口，大栄株式会社，（医）ひまわり，（有）カノヤ工業検査，(有）川浜

この他にも，多くの団体や個人の方からも，たくさんのご寄付をいただき，大変感謝しております。今後ともより一層のご支援をお願いします。

なお，物品のご寄付をいただける場合には，事前に事務局までご一報ください。

より一層のご支援を心よりお願い申し上げます。

《ご協力のお願い》

てんぽは，会員の皆さまの入会金・年会費とご寄付等で成り立っています。今年度よりシェルターが自立援助ホームと同じ公的制度となりましたが，行政から支払われる措置費では足りない状態が続いています。引き続き，一人でも多くの方のご入会とご寄付をお願いしています。

正会員　　入会金5,000円，年会費5,000円
賛助会員　入会金3,000円，年会費3,000円（1口）
寄付　金額の多少に関わらず，大歓迎です☆

【振込口座】
・日本郵政公社
口座記号番号　００２６０－８－１３３４０８
特定非営利活動法人子どもセンター　てんぽ

【定時総会＆シンポジウムのお知らせ】
下記の日程及び場所で行います。皆様，お誘い合わせの上，ぜひご参加ください。
日時：２０１４年5月１７日（土）
　１２：３０～　定時総会
　１３：３０～　シンポジウム
場所：旭区民文化センター・サンハート（定員３００人）
テーマ：
飛び立つために羽を休めてⅧ
子どもの話をきくということ

【編集後記】
寒さが身にしみる季節が到来しました。
先日、近所の神社で行われた毎年恒例のお餅つき大会に出かけてきました。薪をくべたかまどで米を炊き、大きな臼と杵で餅つきです。近所の子供たちは、もちろん餅つきにも興味を示していますが、薪をくべたかまどを不思議そうに見ています。かまどで米を炊く光景もあまりみないためでしょうか、複数人の子どもが「お米は炊飯器でできるんじゃないの？」と話していました。
便利な時代ではありますが、日本ならではの心温まる光景は承継していきたいですね。
お餅、美味しかったです♪（野口容子）

「てんとうむし」は特定非営利活動法人子どもセンターてんぽ事務局が，責任を持って編集・発行しております。本誌に関するご意見等ございましたら，下記までご連絡頂きますようお願い申し上げます。（無断転載はご遠慮下さい。）

【子どもセンター　てんぽ事務局】
〒２２２－００３３
横浜市港北区新横浜２－４－６
新横浜法律事務所内
TEL：０４５-４７３-１９５９
FAX：０４５-４７７-５８２２
E-mail：info@tempo-kanagawa.org
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.tempo-kanagawa.org/
２０１４年１月発行